

「途上国の経済開発と環境保全」 研究の課題

ECONOMIC DEVELOPMENT AND ENVIRONMENT IN DEVELOPING COUNTRIES: RESEARCH AGENDA

環境システム委員会

中村 正久*

Masahisa Nakamura

ABSTRACT; A seminar series on economic development and environment in developing countries was conducted with particular reference to the Asian region. A range of issues including the global environmental problems was discussed by five invited speakers. While the issues presented gave an overview of problems facing developing countries today, a number of future research agenda were also identified.

KEY WORDS; economic development, environmental issues, developing countries, Asia, ODA, technical cooperation

1. はじめに

本学会環境システム委員会の主催で、標記研究セミナーシリーズを92年10月より94年3月の間に5回にわたり開催した。5名の演者から広範な話題の提供があり、参加者からも熱心な議論が行われた。以下に提供話題リストの一例を記す。

2. 提供話題項目例

提供話題は広範にわたるためその詳細の紹介は別の機会にゆづるが、話題例として以下の項目などがあげられる。

1. 地域的問題と地球規模問題の明確な区別が必要:

これまでの途上国経済開発と環境問題の論議では上記の区別が明確でなく、「持続的開発」概念についても両者の関係を明確にし得ていない。環境破壊の社会的、政治的、経済的背景の関連を更に明確にしていく必要がある。

2. 地球環境問題の類型

類型に様々な視点がある。例えば、①途上国の多様性、②開発と環境、③日本とアジアの環境問題、④「開発」モデルと「援助」モデル、などが切り口としてあげられた。

3. 地球環境ブームと「リオ'92」の総括の必要性

・1987年の「ブルントラント報告」の意義

・環境と開発をめぐる、南北間・各国間の国家的利害の対立と攻防

* 滋賀県琵琶湖研究所

Lake Biwa Research Institute, Otsu, Shiga

・20世紀末の地球社会にみる構造やシステムの矛盾や限界の露呈などについて十分な総括が行われていない。研究課題として今後の検証が待たれている。

4. アジアの環境問題の特徴

急速な経済発展を遂げるアジア諸国の環境問題には他の地域のそれと区別される幾つもの特徴がある。とくに、以下の二点は今後も重要な研究課題として取り組みが期待されている。

- (1)複合的環境問題（たとえば、工業化、公衆衛生問題、都市化と大量消費型生活様式、ポスト工業化）
- (2)日本とアジア諸国（日本経済とアジア地域経済の関係、日本の経済発展と環境問題対応の経緯、経験の移転）

5. 途上国の直面する環境問題のとりえ方

途上国環境問題のとりえかたにも様々な側面があり、必ずしも見方が一致していない。たとえば、

- (1)複雑化した「南北構造」の中で深刻化する問題としてのとりえ方、たとえば

・世界経済にみる「地域的不均衡発展」と多様な「経済格差」の深まり
・途上国サイドにみる環境問題における多様化・複雑化・構造化・国際化、や、

- (2)途上国サイドにみる環境問題の特徴

・先進国の後追い型、先進国による資源収奪型、経済と環境の同時的カストロフィー型、貧困と環境破壊の悪循環の進行、など、が議論の材料として提供された。

6. 途上国サイドにみる環境破壊の現実が提起している諸問題としては

- (1)「文明化」、「工業化」、「都市化」、「開発」の問い直し、
- (2)「開発」の内実（理念・方式・帰結）に関する理論的再検討、などの必要性が指摘された。

7. 途上国における環境破壊を促す「制度」に関する考察として、

- (1)制度的問題（①価格体系の歪み、②減価償却制度と更新投資、③経済の寡占・独占的体質と環境規制、④土地所有制度と資源利用、⑤経済の国際化に対応しきれない環境政策）や、
- (2)経済不振のもたらすもの（①思考の短期化→環境より開発、②債務支払いの重荷→資源の切り売りに拍車、③投資の停滞）など、が議論の材料として提供された。

8. 地域的問題から地球規模の問題への展開

この点に関しては様々な論点が紹介された。一例をあげれば以下の通りである。

- (1)地域的問題の解決には投資が重要な役割を果たす。つまり、経済の成長が重大な要件となる。(2)しかし、各国経済の順調な発展は結果として地球環境の一層の悪化に結びつきかねない。(3)したがって、技術体系・社会制度の変革にまず先進国が取り組む必要がある。(4)ついで、ある程度「成熟」した技術を途上国へ移転する。しかし、こういった流れから逸脱する多くの重要な論点の存在も議論された。

9. 国際強調と日本の役割

議論の材料としては、

- (1)国際的環境基準確立のためにイニシアティブを発揮、環境研究の充実を。
- (2)環境援助の方向→開発援助との整合性を。

などの視点が示されたが、この点に関しては、貢献・責務の両面から白熱した議論が展開した。

3. おわりに

途上国の経済開発と環境保全を、貢献という目でみればわが国が得意とする分野に目が行きがちだが、責務という目でみればこれまで不十分であった点についてどう取り組むのか、わが国制度・政策の構造的な問題点について再認識が求められているということであろう。